

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

1年1組	指導者	梅木 香枝	教科等	国語科
単元名等	ぶんをつくろう			
目標	評価規準	← ※どちらかを選択し、 <u>で囲ってください。</u>		
知識及び技能	知識・技能	○文の中における主語と述語との関係に気付くことができるようにする。 【知（1）カ】 ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができるようにする。 【知（1）ウ】		
思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現	◆ <u>主語と述語のつながりに気を付けて一文を書くことができるようにする。</u> 【思B（1）ウ】		
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	○主語と述語のつながりを丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文で書こうとするようにする。		
単元の学習展開（全4時間）				
導入	□教科書の挿絵を見ながら、二つの文章を読み、「○○が～。」「○○は～。」の文型に気づく。			
展開	□教科書の挿絵を見て、「○○が～。」「○○は～。」の文を作る。 □日常の生活から「○○が～。」「○○は～。」の文を作る。			
終末	□学習をふり返り、書いた文を読み合い、文で伝えるよさを感じる。			

本時 (3/全4時間)	ねらい	学校の出来事を、 主語と述語のつながりや句点に気を付けながら「○○が～。」「○○は～。」の文で表すことによって、 一文で書くことができるようにする。 （下線部…単元の評価規準との関連【◆思考・判断・表現 ノートの記述】）	
	学習過程	「めあて」 「学校の出来事の文を書こう。」 『課題』 『どうしたらわかりやすいかな』 『まとめ』 『「何が」「誰が」をつけると、わかりやすい』 「振り返り」の視点 ・「○○が～。」「○○は～。」の形で文が書けたか。 ・意味が伝わるようにように書けたか。	
	努力を要する状況の児	【予想されるつまづき】 ・書きたいひらがなを思い出せない。 ・学校の出来事が思いつかない。	【必要な支援・手立て】 ・ひらがな表を手元に置きながら書けるようにする。 ・友だちと話したり写真を見たりしながら、出来事を思い出せるようにする。